

未来を結ぶ

湯 皓月

「お久しぶり！ 元気？」中央高校の応接室で半年前中国から日本にやってきた留学生に会った。「お久しぶりです！」その子は元気そうな声と笑顔で答えてくれた。まるで十年前の自分のようだ。

今は、2019年、私は今年から国際交流基金日本交流センターの係員になって、今は盛岡で、交流センターの東北支部で働いている。毎年、中日関係の礎となる青少年、市民交流のためにいろいろやっている。目の前の子、李は第十三期の長期交流生として盛岡中央高校で勉強している。十年前、私は第三期生として岩手 今らか見てまるで私の第二の故郷で 一年留学した。窓を通してはらはらと落ちてきた雪を見て、今の光景と十年前の違いを感じた。

「岩手はやっぱり寒い？」李と話をする時、こんな問題を聞いた。「そうですね。建物の中では暖かいんですけど、外はたいへんですね。」と言いながら李は視線を外に移した。「これはみんなが温暖化が進むのを抑えたおかげだよ。」私の話を聞いて李は賛成するように笑った。「そうですね、先生から聞いて、学校のストーブは今、全部エタノールで運転しているそうです。」わくわくしてる李を見てその嬉しさもちゃんと自分の心に伝えてくれた。「すごいね」「自動車のエンジンもそう、それを使っているそうですよ。二酸化炭素が少なくなっただけですね。」

帰る時もずっと雪が降ってたが、地面には全然積もってない。それは道路の下に縦横に入り混じっているパイプに地下水が入っているから、道路の温度を平年氷点以上に保って、雪が降っても凍らない。それで交通事故も少なくなってきた。

暖かい春を迎えて、私と李は盛岡市障害者スポーツ大会のボランティアに参加した。十年前と比べて社会福祉や医療の制度がずっと整って、福祉施設も病院も多くなって幸せそうな笑顔も増えてきたようが気がする。「みんなすごいですね。」スポーツ大会の選手たちの姿を見て李はそう言ってくれた。「そうだよね。だから私たちもなるべく未来のために、町のために、自分のために頑張らなければならないね。」十年前このボランティアに参加した自分と同じ、再びそう思っていた。

七月になって、李は一年間の留学生活が終わって、中国に帰っていった。その夏、交流センター東北支部も拡がって、中国との交流だけじゃなくて、世界中に拡がった。毎年いろいろな国からの人たちが、いろいろな文化を持って、いろいろな視線や角度でこの大地を見てくる。それで生まれた新しくたくさんのお出会い、新奇な発見、そしてすばらしい思い出、この全てが岩手にたくさんの活力を注いで、毎日毎日変わって進んでいく。

窓のそばで外の雪を見て、岩手は今もこれからもずっと進んでもっとすばらしい未来を結んでいると心から信じていた。